

どこに注目
すればいいの？

なぜ長州力と

田村潔司が

一緒に!?

今さらUWF?

無謀だろ

何がやりたいんだ

所属選手が

無名の2人なんて…

すべての答えは
ここから始まる

GLEAT Ver.0

10月15日(木) 東京・後楽園ホール

1 GLEAT シングルマッチ (30分1本勝負)

NOSAWA 論外 vs カズ・ハヤシ

2

UWF ルール～ダブルバウト (30分1本勝負)

伊藤貴則 / 大久保一樹 vs 船木誠勝 / 田中稔

※ダウン、ロープエスケープともに1ロストポイントとなり、チームとしての合計ロストポイント5でTKO負けとなる

3

セミファイナル～UWF ルール (30分1本勝負)

朱里 vs 優宇

※ダウン、ロープエスケープともに1ロストポイントとなり、合計ロストポイント5でTKO負けとなる

4

メインイベント～GLEAT シングルマッチ (30分1本勝負)

渡辺壮馬 vs 拳王

5

スーパードリームマッチ～GLEAT 6人タッグマッチ (60分1本勝負)

秋山準 / 関本大介 / 谷口周平 vs 杉浦貴 / 藤田和之 / ケンドー・カシン

・田村潔司EDの目・

まず、UWF ルールに関してですが、シンプルにエスケープもダウンも1にして5ロストポイント制にします。新生 UWF の時はエスケープ3でダウン1となっていて、5ダウンで負けでしたけど、こっちの方が見てわかりやすいと思うし、プレイヤー自身もTKO まであと何回なのかわからなくなる。通常のプロレスもシンプルじゃないですか。

僕はプロレス界に関して浦島太郎状態だし、選手の肩書きや情報は一切入れないようにしているんです。というのも、GLEAT の試合を見て判断しないかというのがあるんで。じっさい、面白ければ結果オーライ。UWF スタイルでやってもらって、イメージはあとづけです。だから、このスタイルでやりたいという人がいたらどんな手をあげてもらいたいし、敷居を高く感じないでほしい。

そうした中で、僕が女子で誰かいないですかというオファーを出したらこの二人があがってきたんです。どちらも試合は見たことがないけど、朱里選手の方はハッスルやUFCに出たことぐらいは知ってはいたんですけど、彼女なら何も考えなくてUWF スタイルの動きができる人だと思ったんです。それを自分なりに表現してもらえたらいい。

タッグマッチを入れたのは、どうしてもダブルバウトを見せたいというのはなくて、この4人はどういう組み合わせでもよかったんですけど伊藤選手に頑張ってもらいたいので、Uの大御所とどう向き合うかを見たくてこのカードになりました。今、練習を見ているんですけど、計画性は持ちつつ野放しでやらせています。肉体は1年ぐらいかかえないと変わらないんで、UWF がどういうものだったかというレクチャーはしていないんですけど、当時の映像は見ているそうです。

今回、なぜ僕がGLEATに携わっているかという、僕がUWFを残していかないといけないという思いがあって、それを伊藤選手や渡辺選手に託している。どこかで僕が途切らせてしまうと、そこでUの歴史って終わると思うんです。それをずっと語って行って、彼らが自分でやった上で語っていけばUがつながっていくし、歴史を築いてきた人物も浮かばれると思っています。

まずはUWF スタイルの試合がないんで、GLEAT というところで表現させてもらう。ファンとの温度差はあると思うし、僕も感じているからこそイチから創りあげていかないといけない。まずはやってみるところからはじまりです。

・NOSAWA 論外執行役員の目・

長州さんの方から「俺の名前は消せ」と常日頃言われている中で、それでも長州さんがオブザーバーを務めるプロジェクトの中で長州さん寄りの試合を組んだ形です。その中で秋山さんと藤田さんの初対決、2年前にケンドー・カシンが全日本に藤田和之を引き連れてひと悶着あった因縁もありつつ(2018年6月3日、神戸)、杉浦貴と秋山さんは同じサイバーグループにいて絡まない状況にあってある意味、昭和の匂いを漂わせる6人タッグマッチ。簡単そうでなかなか簡単には実現できない6人だと思ってるんで、それは楽しんでもらいたいですね。いろんなところで意外と簡単になっちゃうドリームマッチが多い中、この顔合わせは難しい。特に秋山さんと藤田さんは最初で最後かもしれない。あとは谷口周平が花を咲かせてくれるかうれなにか。

メインに関しては、渡辺壮馬が主役にならなかったらGLEATを起ち上げた意味がない。ただ、こんな10-0なカードをメインにする自体が会社の期待じゃないですか。試合では勝てないと思うけど、違った部分で勝ってほしい。いろんなものを比較して、本人の中で何か一つ拳王を上回れたと思うものを感じてくれたらいいんじゃないですかね。

彼に関しては、それがなんなのかわからないんですけど期待させるような何かを持っている。海外にいった最初の挨拶やパッと見た時に目に入るやつとないやつがいて、入るやつはだいたい出世しているんですよ。そういう匂いは感じているんで、そうあってほしいという気持ちをこめて。

僕とカズさんは執行役員の立場からすれば試合をしなくてもよかったんですけど、執行役員同士の第1試合が面白いかなと。キャリア20年を超えた我々はこの位置ですよ。これはオープニングマッチではなく、前座としての第1試合です。でも、僕らにしかできない第1試合らしい第1試合をカズ・ハヤシとだったらできると思います。巡り巡って新しいプロジェクトのスタートでカズ・ハヤシとシングルマッチができるというのは思うところありますよね。

あとは、東京愚連隊興行で鈴木社長には引っ張ってもらった恩があるし、何よりもこれをやることで、プロレスを嫌いになってほしくないのを携わっているところがあります。成功させたいんで、逆に適当なことは言えないしできないですよ。どっちでもよければバンバン大きいことを言えるんですけどね。

GLEAT 役員



KIYOSHI TAMURA

田村潔司

Executive Director



NOSAWA RONGAI

NOSAWA 論外

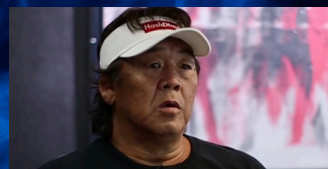
Chief Strategy Officer



KAZ HAYASHI

カズ・ハヤシ

Chief Technical Officer



CHOSHU RIKI

長州 力

Observer

GLEATの本気

リデットエンターテインメント株式会社
代表取締役社長・鈴木裕之

—GLEAT 設立発表後の反応はいかがですか。

鈴木 「本当にやるの?」「できるの?」という、期待よりもどちらかという疑惑の方が多いですよね。あとは田村潔司が出ないのはなぜなのかとか、田村潔司と長州力は本当に会議しているのかとか。

—疑惑だらけですね。

鈴木 ただ、それらのお声は想定していました。そもそも田村エグゼクティブディレクターから最初の段階でそういう声になるとは思いませんと言われていたんです。僕もすぐに結果が出るとは思わなかったし、特に世の中がこういう状況です。ノアさんでも(親会社として)経験もさせてもらったのでわかっていますね。

—それでもやるとなったんですね。

鈴木 ここまで来たらプロレス界に対し、何かしら自分たちの手で形にさせていただきたいと思ったんです。今回、特に感銘を受けたのは UWF の興行権を田村潔司が持っていて、それを使わせようと考えてくれたことがすごく刺さって。そこを当社と一緒にやろうと考えていただけたのが僕としては嬉しかったです。ウチとしては NOSAWA 論外執行役員がいるので、興行として形にはできるんですよ。そこで年に2、3回できたらいいなと思っていたんですけど、田村さんの方から映像を送ってきて、こんな感じでどうですかとプレゼンまでしてくれて、しかも UWF 女子という新しい考えまで盛り込まれていて、採算のことまで考えてくれていた。

—ノアの親会社になる以前からプロレス興行を手がけて、そのビジネスの難しさは身を持って味わってきた中、それでも団体をやろうとしていることが興味深いです。

鈴木 自分はプロレスというものに育てられたと思っていて、社会の縮図、会社の縮図がプロレスには詰まっている。それに対ししっかり恩返ししたいというのと、あとはプロレスをナメられたくない。ナメられている理由は仕事にならないからだと思うんです。企業としてしっかりした価値を提供し、それに合った対価を得るといった流れを構築することで社会貢献価値があることを示したいと思いました。

—鈴木社長のプロレス原体験はいつ頃だったんですか。

鈴木 金曜夜8時のタイガーマスクさんからでした。そこから大人になって、天龍源一郎さんが出たあとの全日本プロレスへいった時に、三沢光晴さんを筆頭にしてどんどん活気が戻っていく場を見ました。そこで、一度大きなものを失った組織でも蘇るんだということを目の当たりにしたんです。

—UWF はリアルタイムで見たいんですか。

鈴木 1大会ぐらいは見ているんですけど、そこに田村潔司が出ていたかどうかは憶えていないんです。たまたまなんですけど、PRIDE でも田村選手が出た時だけ見ていないんですよ。ただ、田村潔司という人の存在は強烈な印象としてあったので、どういう人間なのかというのはクッキリと焼きついていました。

—ということは、UWF の理念やスタイルの再構築に関しては田村 ED に任せる形ですか。

鈴木 そうですね。ここ数年で UWF に関する本がいくつも出てきて関心が高まっている中で、田村さんはこの数年ではなくずっとその三文字にこだわって継続してきたじゃないですか。そういう人は UWF の中で一人だけだと思うんです。そこを尊敬していて、UWF とはこういうものだよななどという話をでき

るような領域にはいない方だと思っているぐらいなんです。だから田村潔司がやりたいと思うことが正しいという感覚で、そこに関しての不安はない。そのやりたいことにウチがアジャストできるかどうかの問題であって。見せるのは決まっているという確信めいた話され方で、それがビジネスにできるというアプローチに見えた。だからそういう場にしてください、そのために社として新人発掘やプロモーション等に携わっていくということなんです。

—そこに長州力という存在が入ってくるわけですが。

鈴木 僕としては難しいとされるものに挑戦していきたいというのがあって、あのお二人と一緒に仕事をするなど業界的には考えられないわけですよね。それを愛と憎悪にたとえるなら、憎悪って愛に変わる可能性がある。憎悪のまま終わるかもしれないけど、二人がシンクロして憎悪が愛に変わればものすごいものが生まれる可能性もある。その橋渡しをできるかどうかは僕自身のチャレンジであって。ノアさんをやらせていただいた時に、強さというところで田村潔司が思い浮かび、あと 10 年早かったら長州力だよなと思って二人と一緒にノアを動かしたら面白いという思いがあったんです。それで去年の 11 月、両国国技館でお二人の席を本人たちには言わず並ばせたら、やっぱり絵になるんですよ。

—あれは長州さん、田村さんには隣同士になるって言っていなかったんですか?!

鈴木 ええ。あれはだまし討ちですね。プロレスリング・ノアにおいて三沢光晴という存在は絶対なんですけど、その上で現存する人間で何をするかと考えた時に迫力を持たせることだと思って、ノアを守るためにあのお二人を並ばせたんです。

—確かに大きな話題になりましたし、あのツーショットのインパクトは絶大なるものがありました。

鈴木 やっぱり新日本プロレス vsUWF インターナショナルが世の中に与えた影響は大きかったわけですから、その要の人間と一緒に動いたら面白くなるはずなんです。

—長州さんはオブザーバーというポジションです。

鈴木 NOSAWA 執行役員が軸となって編成したカードを最終的にチェックしていただく形ですね。そこで意見も出していただいて、じっさい長州さんの意見で今回のカード編成も変えた部分があります。だからちゃんと向き合っていたいんです。田村 ED にしても NOSAWA 執行役員にでもまったく別々のところから集まってきたこともあって、よく「金目当て」とか言われますけど、僕はそういうのを覆したいと思っています。彼らのいいものを提供したいという気持ちを、どうにかして届けたい。

—何よりもこのプロジェクトは伊藤貴則、渡辺壮馬の両選手にかかっています。

鈴木 昔と比べると練習量にしてもまだまだですけど、本人たちが非常にエンジョイしていますし、いいモノができるんじゃないかという輝きが出てきているので期待しています。GLEAT というのは田村潔司が上がるリングではなく、田村潔司が次世代を築くリングなので、そこに対し二人が応える過程を提供していきたいと思っています。

—団体として順調にいったあとの夢はどんなものを考えていますか。

鈴木 僕は日本武道館のような大きなところに進出するというよりも、まずは黒字ですね。年間のプロレス事業に関し黒字収益となること。事業として成立することを証明したい。それが、選手が一番安心して闘える環境だと思うんです。選手は大きなところでやりたいと思うかもしれませんが、ちゃんと生活できるためのベース作り。お金で不安にさせない組織作りが、夢ですね。

GLEAT Ver.0 Wrestlers profile



～超人主義～

伊藤貴則

TAKANORI ITO
[GLEAT]



Twitter Takanori_GLEAT

身長：180cm
体重：115kg
血液型：A型
生年月日：1993年9月20日
出身地：大阪府大阪市
デビュー戦：16年9月18日、東京・後楽園ホール、vsNOSAWA論外&MAZADA
(パートナーはデニス篠原)
プロレス歴：A.C.E.-WRESTLE-1-GLEAT
タイトル歴：WRESTLE-1タッグチャンピオンシップ、WRESTLE-1リザルトチャンピオンシップ、UWA世界6人タッグ
得意技：ジャーマン・スープレックス・ホールド

WRESTLE-1が運営するプロレス学校・プロレス総合学院2期生として入学。半年間で基礎を学びデビューを果たしたあと、総合学院出身者による団体・プロレスリングA.C.E.所属となる。17年4月にデビュー7ヵ月でWRESTLE-1タッグ王者となり(パートナーは河野真幸)、同年7月にはシングル王座であるWRESTLE-1リザルトチャンピオンシップも奪取するなど、キャリア1年で飛び級の実績をあげる。17年にA.C.E.活動休止にともないWRESTLE-1所属となったが、9月に前十字じん帯損傷・外側副じん帯損傷・半月板損傷という重症を負い長期欠場へ。19年大晦日のエディオンアリーナ大阪大会で復帰を果たす。WRESTLE-1活動休止にともない、20年3月31日付をもって選手契約終了。8月、リデットエンターテインメント株式会社の新団体発表映像にてGLEAT初の所属選手となることを発表した。



～The Spectacular～

渡辺壮馬

SOMA WATANABE
[GLEAT]

Twitter Soma_GLEAT

身長：175cm
体重：83kg
血液型：A型
生年月日：1998年11月8日
出身地：埼玉県川越市
デビュー戦：17年7月2日、東京・新木場1stRING、vs梶トマト
プロレス歴：A.C.E.-WRESTLE-1-GLEAT
得意技：ファイアーバード・スプラッシュ、スワンダイブ式フォアアーム

プロレス総合学院3期生として入学。17年4月2日、兄玉裕輔相手に卒業試合をおこない、3ヵ月後に皇壮馬(すめらぎそうま)のリングネームで正式デビュー。A.C.E.所属選手としてWRESTLE-1のリングにも上がる。欠場明けの18年8月11日、カズ・ハヤシがメキシコで発掘した推薦選手の触れ込みでベガソ・イルミナルに生まれ変わり、WRESTLE-1後楽園ホール大会に登場。華麗な空中殺法を得意とするマスクマンとして定着。19年1月より試練の五番勝負が組まれTAJIRI、ディック東郷、ヒート、田中将斗、田中稔と対戦し全敗に終わるも経験値を高める。WRESTLE-1活動休止にともない、20年3月31日付をもって選手契約終了。8月、リデットエンターテインメント株式会社の新団体発表映像にてGLEAT初の所属選手となることを発表した。



～男の中の色男～

カズ・ハヤシ

KAZ HAYASHI
[GLEAT]

Twitter kaz_hayashi

身長：170cm
体重：80kg
血液型：A型
生年月日：1973年5月18日
出身地：東京都世田谷区
デビュー戦：92年11月19日、東京・後楽園ホール、vsバッファロー張飛&モンゴリアン勇牙(パートナーはテリー・ボーイ)
プロレス歴：ユニバーサル-みちのく-プロモ-アステカ-WCW-WWF-全日本-WRESTLE-1-GLEAT
タイトル歴：WRESTLE-1チャンピオンシップ、WRESTLE-1タッグチャンピオンシップ、UWA世界6人タッグ、世界タッグ、世界ジュニアヘビー級、CHAMPION OF STRONGEST-K、NWAインターナショナルライトタッグ、東京世界ヘビー級、中米ミドル級
得意技：パワープラント、ファイナルカット、ハンドスプリング・レッグラリアット
テーマ曲：和魂ロックVer.

みちのくプロレスで海援隊☆DXとして活躍したマスクマン・獅龍の正体とされるも、本人は「友達のメキシコ人」と一貫して否定。98年2月、WCW参戦を機にカズ・ハヤシを名乗り、WCW崩壊後はWWF(現WWE)と契約を交わしながらWCWで出逢った武藤の要請を受けて全日本プロレスに入団、ジュニアの雄として活躍する。13年にはWRESTLE-1に移籍。17年3月より取締役社長を務めたが、20年3月31日をもって活動休止を発表、5月にリデットエンターテインメント株式会社執行役員及びGLEATのChief Technical Officerに就任する。6・10TVマッチにて杉浦軍の新メンバーとしてプロレスリング・ノアのリングへ登場。



～東洋の白虎～

NOSAWA 論外

NOSAWA RONGAI
[GLEAT]

Twitter NOSAWARONGAI187

身長：178cm
体重：93kg
血液型：O型
生年月日：1976年12月17日
出身地：千葉県市川市
デビュー戦：95年12月27日、東京・調布グリーンホール、vs将軍KYワカマツ
プロレス歴：PWC-フリー-DDT-フリー-EMLL-東京愚連隊-GLEAT
タイトル歴：KO-D無差別級、DDT EXTREME級、東京世界ヘビー級、CMLL世界ウェルター級、JCW世界ヘビー級、XLAWインターナショナル、アジアタッグ、東京世界タッグ、UWA世界タッグ、IWRGインターコンチネンタルタッグ、UWA世界6人タッグ、IWRGインターコンチネンタルトリオ
得意技：超高校級ラ・マヒストラル、シャイニング論ザード
テーマ曲：Murder Rap

DDTの旗揚げメンバーとして参加。その後、メキシコやアメリカマットを放浪。MAZADA、TAKEMURA(竹村豪氏)と東京愚連隊を結成し、KIKUAWA(菊澤光信)とFUJITA(藤田ミノル)も加入。04年11月にハヤシから「おまえは論外だ」と言われたのを逆手に取りリングネームをNOSAWA論外とする。19年3月よりノアヘレギュラー参戦し杉浦軍をスタートさせ、その広い人脉でメンバーを拡大。20年3月、リデットエンターテインメント株式会社の執行役員に就任。同5月にはGLEATのChief Strategy Officerへ就任、東京愚連隊興行などで培ったプロデュース力は全幅の信頼を置かれている。

GLEAT Ver.0 Wrestlers profile



～スターネス～

秋山 準

JUN AKIYAMA

[DDTプロレスリング／準烈]

🐦 jun0917start

身長：188cm
体重：110kg
血液型：AB型
生年月日：1969年10月9日
出身地：大阪府和泉市
デビュー戦：92年9月17日、東京・後楽園ホール、vs小橋健太
プロレス歴：全日本ノアフリー全日本-DDT
タイトル歴：三冠ヘビー級、世界タッグ、アジアタッグ、GAORA TVチャンピオンシップ、GHCヘビー級、GHCタッグ、GHC無差別級、アイアンマンヘビーメタル級
得意技：エクスピロイダー、スターネスダスト、フロント・ネックロック、ランニング・ニーバット、ブルーサンダー
テーマ曲：Shadow Explosion

専修大学レスリング部では長州力の後輩にあたり、4年時には主将を務める。ジャイアント馬場にスカウトされ92年に全日本プロレスへ入門。三沢光晴、川田利明、田上明、小橋健太（現・建太）による四天王プロレスの次世代として肉薄する活躍を見せる。00年にノア旗揚げへ参加。GHCヘビー級をはじめとする数々のタイトルを戴冠するも12年12月に退団、フリーとして全日本へ上がり、その後所属となり代表取締役社長に就任し団体をけん引する。20年5月よりDDTヘンタル移籍しユニット・準烈を結成。社長の高木三四郎とはチーム大老害としても活動中。



～ラストワイバーン～

谷口周平

SHUHEI TANIGUCHI

[プロレスリング・ノア]

🐦 noah_taniguchi

身長：182cm
体重：105kg
血液型：B型
生年月日：1976年10月18日
出身地：鳥取県倉吉市
デビュー戦：05年12月24日、東京・ディファ有明、vs菊地毅&志賀賢太郎&SUWA&佐野巧真（パートナーは小川良成&森嶋猛&KENTA）
プロレス歴：ノア
タイトル歴：GHCタッグ
得意技：ワイバーンキャッチ、マイバツハボム・ツヴァイ、ダイビング・ボディプレス
テーマ曲：EX-terminater

高校、大学、自衛隊ではレスリングで活躍し団体が3度優勝した実績をひきついでノアへ入門。12年2月に正統派スタイルから一転し、暴走鉄仮面・マイバツハ谷口へと変貌。17年に長井満也と結託しHOOLIGANSを結成してからは、再び剣又を使っの暴走ファイトを繰り広げる。HOOLIGANS解散後、19年5・4後楽園よりコスチュームを替え、本名の谷口周平に戻し清宮海斗との共闘を約束。現在はノア正規軍として金剛、杉浦軍に対抗している。19年11・2両国国技館大会を前に長州力と公開練習をおこない、そのイズムを吸収した。



～マッスルモンスター～

関本大介

DAISUKE SEKIMOTO

[大日本プロレス]

🐦 sekimotodaisuke

身長：175cm
体重：120kg
血液型：O型
生年月日：1981年2月9日
出身地：大阪府大阪市
デビュー戦：99年8月10日、大阪・鶴見緑地花博公園、対伊東竜二
プロレス歴：大日本
タイトル歴：BJW認定世界ストロングヘビー級、BJW認定ヘビー級、BJW認定タッグ、横浜ショッピングストリート6人タッグ、世界タッグ、アジアタッグ、KO-D無差別級、KO-Dタッグ、世界ヘビー級、NWA UNヘビー級、NWAプレミアムヘビー級、NWAインターコンチネンタルタッグ、CHAMPION OF STRONGEST-K、WEWハードコアタッグ、天龍プロジェクト認定世界6人タッグ、レジェンドチャンピオンシップ、wXw統一世界王座、酒田港インターコンチネンタルタッグ
得意技：ジャーマン・スープレックス・ホールド、アルゼンチン・バックブリーカー、ラリアット、スーパーフライ
テーマ曲：Crown Of Winner

明徳義塾高校時代は野球部に所属し、角入りする前の朝青龍とパーベル挙げて競っていた。99年に大日本プロレスへ入門。デスマッチを売りとする団体内で、鍛え上げた肉体を凶器とする本格派のスタイルで頭角を現し、インディーの選手でありながら長州力が主宰するLock Upにも参戦するなどその実力が認められた結果、団体内でストロングBJを確立。デスマッチとの二本柱としてファンにも認められるまでに高めた。他団体での活躍も数知れず「関本がベルトを保持していない期間はないのでは？」とされるほど、上がった団体のベルトの獲得回数も多い。



～暴拳～

拳 王

KENOH

[プロレスリング・ノア／金剛]

🐦 kenoh_prowres

身長：174cm
体重：95kg
血液型：A型
生年月日：1985年1月1日
出身地：徳島県徳島市
デビュー戦：08年3月2日、徳島市立体育館、vsアレクサンダー大塚
プロレス歴：みちのくノア
タイトル歴：GHCヘビー級、GHCナショナル、GHCタッグ、GHCジュニアタッグ、東北ジュニアヘビー級
得意技：P.E.S（ダイビング・フットスタンプ）、蹴暴、アングルホールド、羅喉
テーマ曲：失恋モッシュ

幼少時代から始めた日本拳法では全日本拳法総合選手権や世界大会で優勝。新崎人生にスカウトされみちのくプロレスへ入団。14年1月よりみちのく所属のままノアに参戦し、15年3月に入団。17年12・22後楽園でエディ・エドワーズを破りGHCヘビー級王座を初戴冠。19年5・4後楽園でノアの新体制に不満を抱く者たちと金剛を結成。初開催となったN-1 VICTORYで優勝を果たす。20年8・4後楽園で中嶋勝彦を下しGHCナショナル選手権者に。リデットエンターテインメント株式会社がノアの親会社だった頃は事あるごとに批判していたが、サイバーエージェントグループ入りしたあとは元親会社への感謝の意を表し、GLEATにも協力することを公言した。

GLEAT Ver.0 Wrestlers profile



～KILLING MACHINE～

杉浦 貴

TAKASHI SUGIURA

[プロレスリング・ノア／杉浦軍]

noah_sugiura

身長：178cm
体重：89kg
血液型：B型
生年月日：1970年5月31日
出身地：愛知県名古屋
デビュー戦：00年12月23日、東京・有明コロシアム、vs志賀賢太郎&金丸義信&森嶋猛（パートナーは井上雅央&力皇猛）
プロレス歴：ノア
タイトル歴：GHCヘビー級、GHCナショナル、GHCタッグ、GHCジュニアヘビー級、GHCジュニアタッグ、NWAインターコンチネンタルタッグ
得意技：オリンピック予選スラム、アングルホールド
テーマ曲：When Love Comes To Town

自衛隊時代はレスリングで実績を残し29歳でプロに転身。06年にジュニアシングル&タッグを戴冠後、09年12・6日本武道館で潮崎豪を破りGHCヘビー級を初戴冠。1年7ヵ月に渡り最多連続防衛記録となる14度の防衛に成功する。19年のGLOBAL TAG LEAGUE前に杉浦軍を結成、KAZMA SAKAMOTOとのコンビで優勝を果たし「俺は会社の犬だ！」と自ら宣言。11・2両国ではマイケル・エルガンに勝ち新設されたナショナル王座の初代王者に輝く。20年8・30川崎では同じ杉浦軍のイホ・デ・ドクトル・ワグナーJr.&レネ・デュブリが返上したGHCタッグ王座決定戦で潮崎&中嶋のAXIZを破り桜庭和志とともに新チャンピオンとなる。



～猪木イズム最後の継承者～

藤田和之

KAZUYUKI FUJITA

[フリー／杉浦軍]

身長：182cm
体重：115kg
血液型：O型
生年月日：1970年10月16日
出身地：千葉県船橋市
デビュー戦：96年11月1日、広島県立総合体育館グリーンアリーナ、vs永田裕志
プロレス歴：新日本-猪木事務所-フリー
タイトル歴：IWGPヘビー級、IGFチャンピオンシップ、レジェンドチャンピオンシップ
得意技：パワーボム、スリーパーホールド、肩固め、ヒザ蹴り、パントキック
テーマ曲：INOKI BOM-BA-YE オークストラバージョン

日本大学レスリング部で全日本学生選手権4連覇を果たし、新日本プロレス職員としてアトランタオリンピックを狙い、全日本選手権2度優勝の実績を残したあとプロ入り。退団後は総合格闘家としてPRIDEで活躍し名をあげたあと、新日本のリングへカムバック。01年4月9日にスコット・ノートンを破りIWGPヘビー級選手権者となる。11年からはIGFで活動。19年9・16大阪でノアに初参戦。同じレスリング出身の杉浦とのタッグも無敵の進撃を続け、3・29後楽園で潮崎豪のGHCヘビー級に初挑戦し、王座奪取こそならなかったものの無観客試合は30分以上もニラミ合いを続けた試合で話題になった。



～悪魔仮面～

ケンドー・カシン

KENDO KASHIN

[フリー／杉浦軍]

身長：181cm
体重：87kg
血液型：B型
生年月日：1968年8月5日
出身地：青森県南津軽郡常盤村
デビュー戦：92年9月21日、盛岡・岩手県営体育館、vs金本浩二
プロレス歴：新日本-全日本-フリー
タイトル歴：IWGPジュニアヘビー級、IWGPジュニアタッグ、世界タッグ、世界ジュニアヘビー級、DDT EXTREME級、CWA世界ジュニアヘビー級、EWPインターコンチネンタル
得意技：腕ひしぎ十字固め、KVニーロック、凶器攻撃
テーマ曲：Sky Walk

早稲田大学時代は全日本学生選手権3連覇を果たすなどレスリングの猛者として鳴らし、92年に新日本へ入門。96年のヨーロッパ遠征時にマスクマンのケンドー・カシンとなる。02年に全日本へ移籍するも無断欠場を繰り返したことにより04年7月に解雇。以後はフリーとしていく先々でやりたい放題の放漫なキャラクターを通し、いつしか「悪魔仮面」と呼ばれるようになる。ノアでは04年7・10東京ドームで杉浦と組み丸藤正道&KENTAのGHCタッグに挑戦。20年6・10TVマッチにて杉浦軍の新メンバー・Xのカズ・ハヤシとともに登場するも、ユニット名をリデット軍にするよう進言したかと思えば、そのあとにサイバーファイト軍を名乗ろうとするなど、味方さえも煙に巻いている。



～U FILEのキューティリティープレイヤー～

大久保一樹

KAZUKI OHKUBO

[U-FILE CAMP]

ohkubo_kazuki

身長：180cm
体重：90kg
血液型：A型
生年月日：1979年6月30日
出身地：東京都立川市
デビュー戦：01年3月20日、東京・ディファ有明、vs森素道
プロレス歴：U-FILE CAMP-頑固-U-FILE CAMP
タイトル歴：頑固ヘビー、アイアンマンヘビーメタル級
得意技：キャプチュード、ゴロー・スープレックス
テーマ曲：To Make The End Of Battle

田村潔司が主宰するU-FILE CAMPのジム生として技術を取得し、リングスの「バトルジェネシス」にてプロデビュー。U-FILE主催の大会に加えDEEP、パンクラスなど総合格闘技に出場する一方、プロレスのリングにも上がる。06年1月には自身で頑固プロレスを設立し、U-FILEの常設会場である西調布格闘技アリーナで独自の活動を続けた。現在はU-FILE CAMP大森でインストラクターを務めながら、プロのリングにも上がり続ける。

GLEAT Ver.0 Wrestlers profile



～蘇ったラストサムライ～

船木誠勝

MASAKATSU FUNAKI
[フリー/M's alliance]

masa_funaki

身長：182cm
体重：90kg
血液型：O型
生年月日：1969年3月13日
出身地：青森県弘前市
デビュー戦：85年3月3日、北茨城市体育館、vs後藤達俊
プロレス歴：新日本-UWF-藤原組-パンクラス-全日本-WRESTLE-1-フリー
タイトル歴：三冠ヘビー級、世界ヘビー級、爆破王、レジェンドチャンピオンシ
ップ、キングオブ・パンクラス、世界タッグ、KO-Dタッグ
得意技：ハイブリッドブラスター、浴びせ蹴り、掌打
テーマ曲：TO-U

闘魂三銃士（武藤敬司、橋本真也、蝶野正洋）の同期として新日本に入門し15歳11ヵ月でデビュー。欧州遠征後、UWFに移籍しパンクラスにいたるまで格闘技路線を進む。00年5月26日、ヒクソン・グレイシーに敗れ引退。07年に総合で復帰し、翌年4月29日のDREAMさいたまスーパーアリーナ大会でUWF時代の後輩・田村潔司と初対戦した（パウンドによるTKO負け）。09年8月30日に全日本でプロレス復帰。WRESTLE-1退団後はフリーとして活動していたが、ノア8・30カルツかわさき大会に武藤が用意した“M”として登場、ユニット・M's alliance入りを果たした。



～THE SPECIAL ONE～

田中稔

MINORU TANAKA
[フリー]

minoru_offical

身長：175cm
体重：82kg
血液型：O型
生年月日：1972年11月29日
出身地：愛知県小牧市
デビュー戦：94年1月24日、東京・後楽園ホール、vsマーク・アッシュフォード
プロレス歴：藤原組-バトラーツ-新日本-フリー-全日本-WRESTLE-1-フリー
タイトル歴：GHCジュニアヘビー級、GHCジュニアタッグ、IWGPジュニアヘビー級、IWGPジュニアタッグ、世界ジュニアヘビー級、アジアタッグ、WRESTLE-1クルーザーディビジョン、NWA世界ジュニアヘビー級、インターナショナルジュニアヘビー級、EWPインターコンチネンタル、FMW認定ジュニアヘビー級、NWAインターナショナルライトタッグ、UWA世界6人タッグ
得意技：ミノルスベシャル、FIREBALLスプラッシュ、HEATクラッチ
テーマ曲：SILENCE

プロフェッショナルレスリング藤原組、格闘探偵団バトラーツを経て新日本へ移籍し、マスクマンのヒーローとしてIWGPジュニアヘビー級選手権最多連続防衛記録11を樹立。その後、全日本、WRESTLE-1でも活躍。フリーとなり「GHCジュニアのベルトを獲りIWGPジュニア、世界ジュニアとのトリプルクラウンを達成させるために」ノアへ参戦。19年3・10横浜文化体育館で原田大輔を破り、GHCジュニアヘビー級王座を初奪取、公約を果たした。船木誠勝とは全日本時代にユニット STACK OF ARMSを組んだ関係。



～ものが違う女～

朱里

SYURI
[MAKAI]

syuri_wv3s

身長：164cm
体重：58kg
血液型：A型
生年月日：1989年2月8日
出身地：神奈川県海老名市
デビュー戦：08年10月26日、栃木・宇都宮市体育館、vs鬼蜘蛛&ザ・モンスタ-℃&ザ・キヌガワン・ピラニアン・モンスター（パートナーはHG&RG）
プロレス歴：ハッスル-SMASH-Wrestling New Classic-REINA-フリー-MAKAI
タイトル歴：アーティスト・オブ・スターダム、SMASHディーパ王座、WNC女子王座、REINA世界女子、CMLL-REINAインターナショナル、CMLL世界女子、ECCWシングル王座、REINA世界タッグ、OZアカデミー認定タッグ、センダイガールズワールドタッグ、ストロー級クイーン・オブ・パンクラス王座（総合格闘技）、Krush女子王座（キックボクシング）
得意技：バズソーキック、ジャーマン・スープレックス
テーマ曲：ストリートファイター4さくらのテーマ

ハッスルのオーディションに合格しKG（空手ガールの意）のリングネームでプロレスデビュー。ハッスル活動休止後はTAJIRI率いるSMASH、Wrestling New Classic所属として活動する。プロレスと並行しキックボクシング、総合格闘技でも台頭。女子プロレスラーとして立ち技・Krushのベルトを巻き、16年4月24日にはパンクラスに初参戦し浅倉カンナを3-0で破る。17年7月にUFC（アルティメットファイティングチャンピオンシップ）と契約。9月23日にジョン・チャンミに2-1で判定勝ちし、UFCにおける日本人女子ファイター初勝利の偉業を成し遂げる。現在はスターダムのリングを主戦場としている。格闘家としてはボスジムジャパン所属。



～ドラマティックドリームファイター～

優 宇

YUU
[プロレスリングEVE]

yuu_tjp

身長：157cm
体重：非公開
血液型：A型
生年月日：7月19日
出身地：千葉県
デビュー戦：16年1月4日、東京・後楽園ホール、vsのどかおねえさん
プロレス歴：東京女子-フリー-EVE
タイトル歴：TOKYOプリンセス・オブ・プリンセス、アイアンマンヘビーメタル級
得意技：ラストライド、イッテンヨン（腕決めケサ固め）、イッポン（高角度払越）、ライトニングマクキーン（低空フライング・エルボーバット）
テーマ曲：D.D.F

DDT・木村浩一郎の勧めで柔道を始めインターハイにも出場。DDTのプロレス教室に通い、東京女子プロレスへ入門。現役時代の木村がスーパー宇宙パワーというマスクマンとして活動していたことから、その一文字を取りリングネームを優宇としデビューを果たすや無敗の快進撃を続け、16年9月22日に山下実優を下し同団体最高峰のシングル王座を奪取する。この連勝記録は17年6月4日の同王座防衛戦で敗れるまで続いた。18年1月31日をもって東京女子を退団しフリー転身。イギリスの女子プロレス団体・プロレスリングEVEにも参戦し、所属となる。センダイガールズプロレスリングの橋本千紘とのコンビ「チーム200キロ」は女子プロ界屈指の重量級コンビとして恐れられている。

UWF ルール

【試合時間】

30分1本勝負

【勝敗】

- ・ギブアップ(タップアウト)
- ・KO
- ・レフェリーストップ(TKO)
- ・ドクターストップ(TKO)
- ・ポイントアウト(TKO)
- ・セコンドによるタオル投入(TKO)
- ・反則行為
- ・試合放棄
- ・ノーコンテスト
- ・時間切れの場合はポイント差にて勝敗を決する

【5ロストポイント制】

- ・競技者の持ち点は5ポイントとする
- ・時間切れの場合は、ポイント差で勝敗が決まる

【対象ロストポイント】

- ・ダウン1点
- ・ロープエスケープ1点

【ロープエスケープ】

- 選手は自己の意思により
- ・ロープをつかむ
 - ・手首、足首をロープ外へ出すことでロープエスケープが認められる(スタンディングポジションから試合を再開)

【反則行為】

- ・頭突き
- ・ヒジ打ち
- ・金的
- ・噛みつき
- ・頭髪を引っ張る行為
- ・脊柱、脊椎の攻撃
- ・ヒールホールド
- ・スタンド & グラウンド状態でのヒジ打ち & 拳による顔面への攻撃
- ・4点ポジションでのあらゆる打撃攻撃

【反則行為があった場合のカード提示】

- ・イエロー(注意・減点1)
 - ・レッド(減点1・失格)
- ※選手のダメージ、レフリーの裁量により判断

田村潔司がUWFの三文字にこだわる理由

生え抜き第1号として辛い経験をしてきたからこそ深い思い入れ

文・鈴木健.txt

UWFは1984年4月に旗揚げされた。スタートこそ新日本プロレスから分派する形だったが、カール・ゴッチの流れをくむ藤原喜明、スーパー・タイガー(佐山聡)、前田日明らが集結するうちに、場外乱闘やロープワークを排除しキックとスープレックスとサブミッションを三種の神器とするスタイルが、マニア層に支持されていく。

一度は会社の経営不振から活動を休止し、新日本との業務提携を結び86年1月より古巣のリングへ上がることとなったが、純然たるUスタイルを実践する土壌はなく、87年11月に前田が長州力の顔面を蹴撃したことで解雇される。ところが、これを機に再旗揚げへと動き88年5月に新生(第2次)UWFをスターティングオーバーさせるや、爆発的人气に。

チケットは即売し、地上波テレビでもとりあげられ、社会現象となる。有明コロシアム、日本武道館、東京ドームとまたたく間に大会場へ進出し満員マークを連発した。

田村潔司はそんな新生UWFの生え抜き第1号だった。旗揚げ戦から1ヵ月後の第1回入門テストに唯一合格。つまり、新人としての生活がスタートするやすべての雑用をこなさなければならないという、実に厳しい立場が待ち受けていた。

本人は「当時はそれが当たり前だと思っていたし、とにかく生き残ることで必死だったからキツイなんて考える余裕もなかった」と回想するが、日々の練習メニューも現在はと比べ物にならない内容。日本語を忘れるぐらいに誰とも会話できず、胃潰瘍にまでなった。

約1年もそのような生活を続けながら田村は音をあげず、89年5月21日、千葉・東京ベイNKホールで鈴木実(現・みのる)を相手にデビューを果たす。だが5ヵ月後、欠場した船木誠勝の代役として前田と対戦し、ヒザ蹴りで右眼窩底を骨折。長期欠場を余儀なくされた。

結果的に、1年1ヵ月ぶりの復帰戦が団体としてのラストマッチとなってしまった。UWFで経験した試合数はわずか6。やり残した感は、大いにあっただろう。

田村が台頭してきたのは、三派に分裂した後のUWFインターナショナルだった。エース・高田延彦が95年7月に参院選へ出馬したさいは、次代をけん引する存在として誰もが認める実績を残していた。

にもかかわらず3ヵ月後、Uインターは新日本プロレスとの全面対抗戦に出る。UWFにこだわり、従来のスタイルと交わることをよしとしなかった田村は東京ドームに背を向けた。

ペナルティーとして試合が組まれなくなる中、K-1のリングでパトリック・スミスとバーリ・トゥード(なんでもあり)で対戦することが決まる。これをして当時、新日本の現場監督だった長州力は「(通常の)試合に出ないようなやつはとりあげるな」とマスコミに釘を刺した。

絶対的不利という下馬評を覆し、田村は孤独な闘いを制す。負けたら引退するつもりだったことを試合後に明かしたほど、精神的に追い込まれた中での勝利だった。

やがて田村はUインターを去り、リングスへ移籍。そこでも前田を破り、無敵を誇っていたグレイシー一族のヘンゾにも判定勝ちを取めるなど「たった一人のUWF現存形」と表される。総合格闘技イベントPRIDEに出場するさいも、煽りVTRでは常にその三文字が記された。

新生UWF入門から32年経った今も、田村はそのこだわりを持ち続けている。総合格闘技の技術が確立したことで、Uスタイルは過去のものという見方を他者にされても、そこに関しては一貫して揺るぎがない。

「自分が生まれた場所、育った場所だからですかね。故郷であり、実家であり…UWFしか知らないから、ほかは見えないでしょう。だからずっと(UWFを)やりたいと思っていました。あの当時にやっていたことを、この名前のまままで、Uインターやリングスでやってきたものとは似て非なるもの。」

UWFは、格闘技ができる人でないといけない。プロレスラーならできるというスタイルじゃないんですよ。そういう意味で、僕の中ではランクが上の、夢としてとっておきたいものだったんです。ただ、UWFの完成形がPRIDEのようなスタイルでもない。エスケープポイントがあって、ダウン何回で負けというルールのもとで技術の凌ぎ合いをするのが理想なんです」

これは、2003年頃に田村を取材した時の発言。時間が経過しているため若干考え方の変化は出ているだろうが、基本的な姿勢や思想はそれほど相違ないと思われる。

前述したような辛い経験をした分、思い入れも深くなりUについて誰よりも向き合ってきた。それを過去や思い出にするのではなく、現在形として新たに生み出した。

ここ数十年、いやそれ以上の歳月を田村は待ち続けた。そしてついに、このスタイルを学ぼうとする若者が現れた。

ファン時代の自分が藤波辰爾へあこがれたように、UWFもあこがれの存在にならなければと思ってきた。なぜならそのスタイルも技術も、そして情熱もこの時代に必要なものだと信じているから——それをGLEATに託そうとしているのだ。

本当に今のプロレス界に必要なのか、それとも「今さら…」となるのか。総合格闘技を通過し、価値観が多様化した現在に実践される「第3次UWF」は、32年前のあの熱量を復活させることができるか。



田村にとって新生UWFにおけるラストマッチとなったのは、前田戦後の長期欠場からの復帰戦。1990年12月1日、長野・松本運動公園総合体育館で垣原賢人にロストポイントによるTKO勝ちという、UWFならではの結末だった。この大会を最後にUWFは解散したが、田村はその三文字へのこだわりを持ち続けた

成功するのがわかっていることよりも 「うまくいかない」の声を覆した方が痛快

文・鈴木健.txt

リデットエンターテインメントがプロレスリング・ノアの親会社を離れたあとに「新団体設立へ」と報じられた時、すぐには理解できなかった。広告代理店が本業であり、サイバーエージェントグループへノア・グローバルエンターテインメントの全株式が移った時点で「お役目御免」となったはずである。

そのさい、一スポンサーとしてノアを変わず応援していくことも明らかにされていた。にもかかわらず、自分たちの団体を起ち上げるという発想は前例がない。たとえるなら、新日本プロレスの前親会社であるユークス社が、プロロード体制となったあとに別のプロモーションを設立するようなものである。

最大手の新日本を除くと、プロレス興行をビジネスとして成り立たせるのが難しい時代。加えて現在は、コロナ禍がエンターテインメント全般の存続に影響を及ぼしている。

「無謀だ」「なぜこんな時期に？」といった声が出るのは至極当然であり、ましてや業界的にもまだ広く知られていない若者2名が所属するのみでは、どこに未来を見だし、応援したらいいかとなる。団体の生命線は、ファンの思い入れ以外にない。そして、それを生み出すのは選手になんらかの惹きつける要素があるかどうかだ。

WRESTLE-1でのキャリアこそあるものの、伊藤貴則も渡辺壮馬もそれはいったんリセットされたと見るべきだろう。現在、二人は田村潔司が主宰する U-FILE CAMP で新人に戻ったかのごとくイチから練習に励んでいる。

ただ、田村に言わせると「自分がUWF時代にやった練習メニューの1/3のレベル」となる。それを少しずつ上げていき、地道に積み重ねていく根気を要す。10・15後楽園を旗揚げ戦とせず「Ver.0」としたのは、現時点ではまだそのための準備段階だからだ。

こうした方針に対し「成長するまで待てない」となるか、あるいは「ならばその過程を追ってみよう」と思われるかが、10・15には懸かっている。入り口は、田村が言った通り「何をやるんだ？」でいい。それが肯定的なものであっても否定的な受け取り方だとしても、ゼロではなくイチとなる。

過去に、何度となく「うまくいくはずがない」という声を覆してきた団体に出逢った。新日本、全日本プロレス、UWFしかなかった(女子は除く)頃、大仁田厚が始めたインディペンデント・FMWがそうだった。藤原喜明のもとを卒業し、有名選手が一人もいなくなった捨て猫集団のバトラーズは、業界内の見方を覆し両国国技館に進出した。

ノアと同じサイバーエージェントグループのDDTは無名のインディーレスラー3人(その一人がNOSAWA論外)で始め、観客にその是非を問うNOの方が多かったら本当に旗揚げしなかつた。こうした歴史を見ても、必ずしもスタープレイヤーがいなければ成功せずとはならない。むしろ共通するのは、いずれもファンパワーによって成長していったことだ。

プロレスファンの嗅覚は鋭い。成功するのがわかることよりも弱小団体を追った方が、夢をなし遂げた時により痛快さが味わえるのを知っている。

ただ、それには「ずっと見続けてきてよかった」「応援した甲斐があった」と思わせるものをプロレスラーとして提示する必要がある。これは、技術や強さだけでは決していない。

GLEATでは、そんな伊藤、渡辺という生身の人間を知ってもらおうべく練習風景等を公開していくという。その過程をファンと共有することで、成長物語を描いていくのだ。

この中で、石にかじりついてでも…との思いが言葉ではなく姿勢によってにじみ出れば、見る者の心へと響くだろう。命と同じぐらいに大切なものとして自分の中へ残してきたUWFの三文字を田村が託し、鈴木裕之社長が「この二人に

懸けたい」と言ったのは、ゼロではなくそれ以上の何かを感じ取っているからだと思えてならない。

「広告代理店である私どもがプロレス団体をやることについて、ある社員が言ってくれたことがあるんです。広告は裏方の仕事で、お客様から直接ありがとうと言われるケースは少ない。だから、自分たちの仕事によって楽しめて、キラキラしている観客の皆様を見た時に大きな喜びになった。広告の業績のように数字ではなく、顔や声でそれを実感できるのがエンターテインメントの素晴らしいさだと思ったんです。

私も、ノアさんの親会社を離れる時にファンの皆様から“ありがとうツイート”をいただきまして、私を含めそれを見た社員たちがやってよかったと思えた。プロレスに携わっていなければ経験することができなかった感覚と、それに対する感謝があるからGLEATにも向かっていけるんです(鈴木社長)

おそらく、業界関係者やファンが思っている以上にリデット社は情熱的で、またよくありがちな社長一人が社員を置いてきぼりとし暴走しているような状態でもない。このような環境でプロレスに打ち込める伊藤と渡辺は、恵まれている。インディーシーンで泥水をすすって生きてきたNOSAWAは「会社に対する感謝を忘れず、恩返ししなければ」と言う。

WRESTLE-1時代から二人を見てきたが、可能性の種となり得る出来事が一つあった。2018年9月、伊藤は地元におけるビッグマッチで空位となった王座の決定トーナメントにエントリー。会場の大阪府立体育会館は空手に打ち込んでいた頃の大会会場として、青春の汗を流した場所。1回戦と決勝戦に勝てばベルト姿を披露できるとあり、その日より発売されるパンフレットで初めて表紙に抜てきされた。

しかし、大会数日前にヒザを負傷。すでに編集作業は終わっており修正は効かず、その日は欠場となりながらパンフは売られた。

「せっかく大阪まで取材に来てもらって作っていただいたのに…すいませんでした」

後楽園ホールバルコニーで杖を突く伊藤と取材日以来顔を合わせた時、その無念さに満ちた表情を見て返す言葉が見つからなかった。彼が、この時の悔しさを“のど元過ぎれば〜”としていなければ、田村の指導にもついていたはずだし、見る者の心を揺さぶる闘いを体現できるに違いない。

プロレスには、逆境やネガティブなものを力へと変えられる土壤があるのだから――。



2018年9月14日、道頓堀で取材した時の伊藤。この写真はWRESTLE-1オフィシャルプログラムの表紙となったが、ヒザ負傷により1年3ヵ月もリングから離れることに、それでもカムバックを諦めなかった

グレート公式 YouTube チャンネル

基本毎週木曜 17 時動画配信



GLEAT の真実と進化がここにある